

仙台青葉学院大学 学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

I. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
1. 設置する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	2
2. 地域・社会的動向等の現状把握・分析	2
3. 新設学科等の趣旨目的, 教育内容, 定員設定等	6
4. 学生確保の見通し	10
5. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	19
II. 人材需要の動向等社会の要請	21
1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)	21
2. 上記1. が社会的, 地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであること との客観的な根拠	21

I. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1. 設置する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

学校法人北杜学園は平成 21 年 4 月開学の仙台青葉学院短期大学に「看護学科」を、平成 25 年 4 月には「リハビリテーション学科（理学療法学専攻，作業療法学専攻）」を設置し、看護師，理学療法士，作業療法士の養成を行ってきた。2 学科の卒業生は 1,600 人を超え、その多くは宮城県を中心とする東北地方の医療機関に就職し、地域医療に貢献している。

我が国の医療を取り巻く環境に目を転ずると、超高齢社会、地域包括ケアシステムの推進、より効率的かつ質の高い医療提供体制の構築など看護師，理学療法士，作業療法士を始めとする医療専門職に求められる役割は年々拡大・複雑化しており、また、必要とされる知識、技術、コミュニケーション能力及び課題解決能力も高度化している。これは宮城県及び仙台青葉学院短期大学の位置する仙台市においても同様である。

保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正が令和 2 年 10 月に行われ、看護師養成に係る総単位数が 97 単位から 102 単位に 5 単位増となり、令和 4 年度の入学生から新カリキュラムが適用となった。理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則についても平成 30 年 10 月に改正され、理学療法士及び作業療法士養成に係る総単位数がいずれも 93 単位から 101 単位に 8 単位増となり、令和 2 年度の入学生から新カリキュラムが適用となった。

本学園では、看護学科，リハビリテーション学科ともに最短の修業年限である 3 年間において養成を行ってきたが、指定規則の改正を受け 3 年課程のカリキュラムの過密化が深刻な課題となり、これからの時代に必要とされる知識、技術、コミュニケーション能力及び課題解決能力を備えた質の高い看護職者，理学療法士及び作業療法士を養成していくためには、四年制大学への改組が必要であると判断するものである。

こうした現状把握・分析を踏まえ、令和 6 年 4 月に仙台青葉学院大学 看護学部及びリハビリテーション学部の設置を計画する。

2. 地域・社会的動向等の現状把握・分析

1) 社会的動向

(1) 医療を取り巻く環境

平成 30 年 3 月に公表された国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年推計）」によると、平成 27（2015）年から令和 7（2025）年までの 10 年間で、日本の総人口は 455 万 1 千人減少すると推計される一方、65 歳以上人口は 290 万 3 千人増加し、高齢化率も 30.0%に達することが見込まれている。

また、令和 7（2025）年には、いわゆる「団塊の世代」がすべて 75 歳以上となるなど、世界に類を見ない超高齢社会を迎える。我が国が直面している急速な高齢化の進展

は、必要とされる医療の内容に変化をもたらしてきた。

これまでの医療は、主に青壮年期の患者を対象とした、救命・救急、治癒、社会復帰を前提とする「病院完結型」の医療であった。しかし、超高齢社会においては、複数の疾病で慢性的に医療を受ける高齢期の患者が中心となり、患者の住み慣れた地域や自宅で治療を受けて生活する「地域完結型」へ変化し、さらには、介護、住まいや自立した生活の支援までもが切れ目なくつながる医療が求められるようになった。また、認知症高齢者の数が増大するとともに高齢の単身世帯や夫婦のみ世帯が増加していくことも踏まえれば、地域ごとに医療・介護・予防・生活支援・住まいが一体的に提供される地域包括ケアシステムづくりを推進していくことが求められる。

平成 26 (2014) 年に厚生労働省で策定された「地域における医療及び介護を総合的に確保するための基本的な方針(「総合確保方針」)」では、地域において医療及び介護を総合的に確保していくために、「効率的かつ質の高い医療提供体制の構築」と「地域包括ケアシステムの構築」を「車の両輪」として進めていく必要があるとしている。

(2) 東北地方・宮城県の状況と課題

東北地方においては、高齢化の問題は特に深刻である。(1)で示した「日本の地域別将来推計人口(平成 30 年推計)」によると、宮城県を除く 5 県はいずれも平成 27 (2015) 年の時点で高齢化率は全国平均を上回っており、令和 7 (2025) 年には宮城県を含め東北 6 県すべてで全国平均を上回ることが見込まれている。

平成 27 (2015) 年から令和 7 (2025) 年までの 10 年間で宮城県の総人口は 233 万 4 千人から 222 万 7 千人へ 10 万 7 千人減少すると推計されているが、65 歳以上人口は 9 万 6 千人増加し、高齢化率も 31.2%に達することが見込まれている。本学が位置する仙台市においては、平成 27 (2015) 年の高齢化率は 22.6%と全国平均の 26.6%を下回る状況であるが、令和 17 (2035) 年には全国平均 32.8%を上回る 33.3%に達する見通しである。

人口減少の一方で高齢化が加速するなか、「第 7 次宮城県地域医療計画」(平成 30 (2018) 年度～2023 年度)において以下の方針等が示されている。

- 地域における在宅医療や介護サービスの提供体制の構築を一体的に進め、患者が病床以外の場所でも療養生活を継続することができる環境の整備を進めていくことが必要である。
- そのために、宮城県は、地域医療構想に基づき病床の機能分化・連携を促進するとともに、地域包括ケアシステムを支える人材の確保のために必要な取組等を行い、医療と介護の連携の推進を図っていく方針である。

【資料 1】日本及び東北地方の人口と高齢化率の推移

2) 人材養成の現状・課題

(1) 看護師等

①社会変化に対応した看護師養成の必要性

地域医療構想に基づく医療提供体制や地域包括ケアシステムの構築により、看護師には、様々な場面で人々の身体状況を観察・判断し、状況に応じた適切な対応ができる看護実践能力が求められている。また、患者中心の医療の実現に向け、チーム医療や多職種連携の一員としての役割を果たし、看護の専門性を発揮することや、さらなる医療安全への対応も求められている。加えて、社会の中での看護の位置付けの変化や医療費の動き、限られた医療資源の有効活用について、社会の一員として、また医療専門職の一員として理解し判断できることや、今後も起こるであろう様々な変化を予測し、自らの役割を常に見直し、対応できることも必要である。近年頻発している自然災害や新興感染症への対応など、求められる知識や役割はより専門化、高度化していくと想定される。

このような社会変化に対応するための能力を備えた看護師を養成するためには、学士課程で充実した教育を実践することが不可欠であると考えられる。

②四年制大学での看護師教育の必要性

公益社団法人日本看護協会より平成30年4月25日に「看護職の人材育成に関する要望書」が示され、重点要望事項として、大学における質の高い看護学教育課程の推進が掲げられた。その中で、大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会によって平成29年10月に示された「看護学教育モデル・コア・カリキュラム～『学士課程においてコアとなる看護実践能力』の修得を目指した学修目標～」で提示されている看護実践能力の育成のためには学士課程の看護師教育を推進することが必要であるとされている。また、大学で看護を学ぶ志願者の増加に対し、看護系大学の定員数の増加が追いついていない状況にあり、大学で学びたいと志願する多くの人が、質の高い看護学教育を受けられるよう学部・学科の新設や定数の増加が必要であるとしている。

看護職の職能団体である日本看護協会の要望は、社会的要請を踏まえたものであり、四年制大学の設置が求められている。

③宮城県における看護師数の状況

本学が位置する宮城県における看護師就業者数は、令和4年1月に厚生労働省より公表された「令和2年衛生行政報告例（就業医療関係者）」によると、人口10万人あたり907.6人となっており、全国平均の1,015.4人を大きく下回っている。また、この状況は令和2年に限ったものではない。

先述の「第7次宮城県地域医療計画」においては、令和5（2023）年度末の数値目標として全国平均を掲げているものの、その目標達成に向けて厳しい状況が続いてい

る。

【資料2】宮城県における看護師就業者数の推移（人口10万人対）

④保健師養成の必要性

高齢人口が急速に増加する中、生活習慣病予防、重症化予防及び健康寿命増進に向けた地域保健医療体制の整備が求められており、その中で保健師が果たすべき役割は一層重要なものとなっている。また頻発する大規模自然災害や国際的な感染症に対して健康危機管理能力を有する保健師教育の必要性が増している。

前述の「令和2年衛生行政報告例（就業医療関係者）」によると、人口10万人あたりの保健師就業者数は全国平均44.1人、かつ、就業場所の7割以上が行政機関（市区町村、保健所、都道府県）である。ウィズコロナにおいて、行政機関での保健師による健康増進、介護予防等の推進の役割が期待されている。加えて、地域包括ケアシステムの構築に向けて、訪問看護ステーションや介護老人保健施設等への就業も望まれ、保健師養成の強化を図る必要があると考える。

（2）理学療法士及び作業療法士

①社会変化に対応した理学療法士・作業療法士養成の必要性

我が国は高齢人口の急速な増加により超高齢社会を迎え、リハビリテーション医療の重要性が一層高まり、また、必要とされる内容が多様化している。急性期では早期離床・早期リハビリテーション、回復期では歩行や日常生活に必要な機能回復を目的としたリハビリテーション、生活期では獲得した運動機能及びQOLの維持・向上、日常生活での自立支援、社会復帰など対象者に合わせたリハビリテーションが実施されている。特に、リハビリテーション医療は治療から障害の予防へとシフトしてきており、健康増進、生活習慣病予防、介護予防やフレイル予防など、幅広い領域・分野での理学療法士・作業療法士の活躍が期待されている。また、地域包括ケアシステムにおける在宅支援は、医療技術の発展による平均寿命の延伸に伴い、需要が大きい領域となっている。高齢者や障害のある対象者が地域の中でいきいきと生活するための様々な支援ができる理学療法士・作業療法士が必要とされている。

このように多様化するリハビリテーションのニーズに適応できる能力を備えた理学療法士、作業療法士の養成は我が国の喫緊の課題であるが、従来の3年課程での養成では十分に対応できなくなっており、学士課程で充実した教育を実践することが不可欠であると考えられる。

②理学療法士・作業療法士の四年制大学教育の推進

理学療法士、作業療法士養成の世界的な趨勢は、四年制大学・大学院へ移行している。わが国でも、第47回日本理学療法士協会定時総会（平成30年6月）において、

理学療法士養成課程の四年制大学化推進が賛成多数で可決されている。

作業療法士についても、平成 29 (2017) 年 12 月に公表された「理学療法士・作業療法士学校養成施設等カリキュラム改善検討会報告書」の中で養成期間を 4 年以上に見直すべきという意見が示されたことや、世界作業療法士連盟の声明文においても、大学レベルの特別な教育が推奨されていることなどを受け、一般社団法人日本作業療法士協会教育部は、四年制化を見据えた作業療法士養成教育モデル・コア・カリキュラムを作成した。世界の動向も踏まえた社会のニーズに対応できる作業療法士養成を行うために、大学レベルでの教育を求める機運が高まっている。

③宮城県における理学療法士及び作業療法士数の状況

本学が位置する宮城県における理学療法士及び作業療法士就業者数について、令和 4 年 4 月に厚生労働省より公表された「令和 2 年医療施設調査・病院報告」によると、人口 10 万人あたりの病院勤務の理学療法士数は、全国が 67.0 人に対して宮城県は 49.4 人、同じく病院勤務の作業療法士数は、全国が 37.9 人に対して宮城県は 32.7 人と全国平均を下回っている。

「第 7 次宮城県地域医療計画」においては、看護師同様、令和 5 (2023) 年度末の数値目標として全国平均を掲げているが、その目標達成は容易ではない。

【資料 3】宮城県における病院勤務の理学療法士及び作業療法士数の推移

(人口 10 万人対)

3. 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

1) 趣旨目的

1. 及び 2. で述べたように、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士の養成について、質的側面を向上させながら量的側面を強化することは、地域社会が抱える切迫した課題となっている。その緊要な課題の解決の一助となるべく、既設校である仙台青葉学院短期大学 看護学科及びリハビリテーション学科を四年制へ改組し、令和 6 年 4 月に以下の学部・学科で構成される仙台青葉学院大学の設置を計画するものである。

学部	学科・専攻	入学定員	収容定員
看護学部	看護学科	90 人	360 人
リハビリテーション学部	リハビリテーション学科	100 人	400 人
	(理学療法学専攻)	(70 人)	(280 人)
	(作業療法学専攻)	(30 人)	(120 人)
大学合計		190 人	760 人

本学の人材養成に対する地域社会からの期待は大きい。本学が所在し、かつ東北最大の都市である仙台市より、相互に連携する「地域包括ケア体制の充実強化」の実現のために、仙台市を始めとする地域の保健医療福祉のニーズにしっかりと対応できる実践力を備えた保健師、看護師、理学療法士、作業療法士人材の輩出の期待とともに、仙台青葉学院大学の新設について強いご賛同をいただいている。

【資料4】本学設置に対する賛同書（仙台市）

2) 教育内容

看護学部及びリハビリテーション学部の取得可能な資格及び教育内容は以下の通りである。

(1) 看護学部

①取得可能な資格

所定の科目の単位を取得することにより、以下の資格を取得することができる。

ア 看護師国家試験受験資格

指定の科目を履修し、かつ卒業要件を満たすことにより、看護師国家試験の受験資格を取得することができる。

イ 保健師国家試験受験資格

アに加え、指定の科目を履修し単位を取得することにより、保健師国家試験受験資格を取得することができる。保健師課程は選択制とし、定員は20人とする。

ウ 養護教諭二種免許状

保健師国家試験に合格し保健師免許を取得、かつ指定の科目を履修し単位を取得することにより、養護教諭二種免許状を取得することができる。

②教育内容

ア 豊かな人間性を育む

看護学部では、教養と高い倫理観を身につけ、多角的に物事を理解、判断できる人間性を育む。これは、単に教養教育のみで養えるものではなく、専門分野における職業倫理や医療人、看護職者としての思考力、判断力を涵養することにより、豊かな人間性を育てる。

イ 看護実践能力の育成

日々進歩する医療や社会環境の変化に対応できる看護職者が求められている。その前提には、専門的知識、技術に基づき、様々な場面で人々の身体状況を観察・判断し、状況に応じた適切な対応ができる看護実践能力が必要となる。看護学に関す

る専門教育を通じて、看護実践能力の育成を図る。

ウ 生涯にわたり学び続け、地域社会に貢献する力の養成

看護職者などの医療専門職者は、日々進歩する医療・看護技術に対応すべく、学生時代はもちろん、卒業後も生涯にわたり学び続けることが必要となる。本学部では、教育課程全体を通じて学生が主体的かつ意欲的に取り組む素地を涵養する。また、医療に携わるエッセンシャルワーカーとして、その専門性を活かし、地域社会に貢献できる力を養成する。

(2) リハビリテーション学部

①取得可能な資格

リハビリテーション学部では、所定の科目の単位を取得することにより、以下の資格を取得することができる。

ア 理学療法士国家試験受験資格

指定の科目を履修し、かつ卒業要件を満たすことにより、理学療法士国家試験受験資格を取得することができる。

イ 作業療法士国家試験受験資格

指定の科目を履修し、かつ卒業要件を満たすことにより、作業療法士国家試験受験資格を取得することができる。

②教育内容

ア 豊かな人間性を育む

リハビリテーション学部では、教養と高い倫理観を身につけ、多角的に物事を理解、判断できる人間性を育む。これは、単に教養教育のみで養えるものではなく、専門分野における職業倫理や医療人、リハビリテーション専門職者としての思考力、判断力を涵養することにより、豊かな人間性を育てる。

イ リハビリテーション実践能力の育成

医療需要の増大や社会状況が変化する中、単に評価、治療を行うだけでなく、予防的支援や健康増進など、理学療法、作業療法の対象は広がっており、それぞれの対象者のニーズを正しく捉え、対応することのできるリハビリテーション実践能力が求められている。臨床等での経験を経て、その能力が展開されていく前段階として、本学部では、リハビリテーション実践能力を確実に身につけるべく、その基礎となる専門的知識や理論、技術を教授し、実際の現場に的確かつ柔軟に対応できる人材の育成を目指す。

ウ 生涯にわたり学び続け、地域社会に貢献する力の養成

理学療法士、作業療法士などのリハビリテーション専門職者は、日々進歩する医療技術に対応すべく、学生時代はもちろん、卒業後も生涯にわたり学び続けることが必要となる。本学部では、教育課程全体を通じて学生が主体的かつ意欲的に取り組む素地を涵養する。また、リハビリテーション専門職者として、その専門性を活かし、地域社会に貢献できる力を養成する。

3) 定員設定の理由

看護学部の入学定員を 90 人とする。これは仙台青葉学院短期大学看護学科の入学定員と同数である。仙台青葉学院短期大学で 14 年にわたり継続してきた定員充足の状況、教育の成果、本学専任教職員組織の計画、1 学年増となる短期大学から転用及び新たに整備する施設・設備の規模、看護師の人材需要、学部収支等を総合的に勘案し、この入学定員を設定する。

リハビリテーション学部については、仙台青葉学院短期大学リハビリテーション学科の入学定員 110 人より 10 人減じた 100 人とする。仙台青葉学院短期大学における定員確保の状況、教育の成果、本学専任教職員組織の計画、1 学年増となる短期大学から転用及び新たに整備する施設・設備の規模、理学療法士・作業療法士の人材需要、学部収支等を総合的に勘案し、この入学定員を設定する。

また、後述の 4. 学生確保の見通しより、当該定員は充足される見込みがあると判断する。

4) 新設学科等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

(1) 看護学部

入学定員 (90 人) 及び収容定員 (360 人) において学部運営、施設・設備の維持管理、及び学部収支の健全性等について検討し、開設から完成年度を迎えるまでの収支計画についてシミュレーションを行った。

あわせて、競合校の学生納付金の状況について比較検討した。

【資料 5】競合校学生納付金 (看護学部)

入学に際し必要な経費として、入学金を 25 万円に設定する。授業料については、教育研究経費等の学部運営に関する必要経費を試算し、年間 156 万円と設定する。この中には、施設設備費、実習費等も含んでいる。よって、初年度学生納付金合計額は 181 万円、4 年間の合計は 649 万円となる。

本学看護学部は、宮城県及び隣接する東北各県の私立大学 5 校を競合校とする。学生納付金は、初年度のみでなく、修業年限分必要となることから、各学校の修業年限中の

学生納付金を比較したものが【資料5】である。

競合校と比して妥当な設定であると判断する。特に県内の競合校（2校）よりも総額で60万円以上低い設定となっており、高校生・保護者の学業における経済的負担をできる限り抑えることに資するものとする。この納付金においても、教育研究費については十分な予算を確保し、その環境を充実させていく。

（2）リハビリテーション学部

入学定員（100人）及び収容定員（400人）において学部運営、施設・設備の維持管理、及び学部収支の健全性等について検討し、開設から完成年度を迎えるまでの収支計画についてシミュレーションを行った。

あわせて、競合校の学生納付金の状況について比較検討した。

【資料6】競合校学生納付金（リハビリテーション学部）

入学に際し必要な経費として、入学金を25万円に設定する。授業料については、教育研究経費等の学部運営に関する必要経費を試算し、年間164万円と設定する。この中には、施設設備費、実習費等も含んでいる。よって、初年度学生納付金合計額は189万円、4年間の合計は681万円となる。

本学リハビリテーション学部は、宮城県及び隣接する東北各県の私立大学3校を競合校とする。学生納付金は、初年度のみでなく、修業年限分必要となることから、各学校の修業年限中の学生納付金を比較したものが【資料6】である。

競合校と比して妥当な設定であると判断するが、競合校の中では本学の学生納付金が、最も低い設定となっており、高校生・保護者の学業における経済的負担をできる限り抑えることに資するものとする。この納付金においても、教育研究費については十分な予算を確保し、その環境を充実させていく。

4. 学生確保の見通し

1) 学生確保の見通しの調査結果

定員充足の見込みがあることを確認すべく、以下のアンケートを実施した。

（1）調査概要

開設を計画している仙台青葉学院大学について、高校生らの進学ニーズ等を把握し、適切な計画遂行を図るべく、アンケート調査を実施した。東北6県、北海道、栃木県及び茨城県の高校のうち、仙台青葉学院短期大学の既設学科への入学実績がある、あるいは今後入学が見込まれる高校であり、本学のアドミッション・ポリシーに適合する高校

生がいると想定される高校を抽出し、計 389 校の令和 4 年度高校 2 年生を調査対象とした。調査実施時には、調査票の他に、本学紹介資料を配布し、大学及び学部等の名称、設置の理念や養成人材像、キャンパスの位置、学生納付金、競合する大学等を明示した。調査時期は、令和 4 年 6～7 月、389 校中 226 校 (25,367 人) より回答があり、回収率は 58.1%であった。調査の客観性を担保するために、委託にて調査を実施しており、委託先はギグワークスアドバリュー株式会社である。

(2) アンケート調査結果の概要

本学の入学定員の充足の見込みについて、アンケート調査の結果から以下の通り精査し、分析を行った。

【資料 7】「仙台青葉学院大学（仮称）」設置構想に関するアンケート調査報告書 (高校生対象)

①単純集計

問 3「高校卒業後に希望する進路」に対する回答は、大学進学が 15,004 人(49.4%)と約半数を占めており、短期大学進学が 2,442 人 (8.0%)、専門学校進学が 6,881 人 (22.6%)、就職が 5,583 人 (18.4%) であった。

問 6「仙台青葉学院大学を受験したいか」に対する回答は、「受験したい」が 1,263 人であった。

問 7「仙台青葉学院大学に合格した場合、入学したいか」に対する回答は、「入学したい」が 445 人、「併願校の結果によっては入学したい」が 784 人であった。

問 8「仙台青葉学院大学に合格した場合、どの学科に入学したいか」に対する回答は、第 1 希望学科を看護学部看護学科とするのが 671 人、リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻は 384 人、作業療法学専攻は 113 人であった。第 2 希望学科を看護学部看護学科とするのが 182 人、リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻は 515 人、作業療法学専攻は 385 人であった。第 3 希望学科を看護学部看護学科とするのが 371 人、リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻は 168 人、作業療法学専攻は 515 人であった。

表1 アンケート調査結果からみた定員充足状況について

	問6 受験したい	問7		問8入学したい学科		
		入学したい	併願校の結果 によっては 入学したい	第1希望	第2希望	第3希望
看護学科 (入学定員：90人)	1,263人	445人	784人	671人	182人	371人
リハビリテーション学科 理学療法学専攻 (入学定員：70人)				384人	515人	168人
作業療法学専攻 (入学定員：30人)				113人	385人	515人

以上の単純集計の結果からみると、定員を充足する見込みはあると判断できる。

なお、問9「看護学部看護学科に入学した場合、取得したい資格」に対する回答は、看護師が544人、看護師と保健師が593人であった。

また、問10「仙台青葉学院大学との併願先として検討している大学」に対する回答について、その他を除くと看護学は東北福祉大学140人、東北文化学園大学45人、医療創生大学34人、岩手保健医療大学33人、岩手医科大学27人であった。理学療法学は東北福祉大学で122人、東北文化学園大学46人、医療創生大学30人であった。作業療法学は東北福祉大学で80人、東北文化学園大学29人、医療創生大学25人であった。

②クロス集計

本学が設置する看護学部看護学科及びリハビリテーション学部リハビリテーション学科の定員充足について、単純集計ではその見込みについて確認できた。

以下では、クロス集計による定員充足の見込みを確認する。

表2 クロス集計による定員充足について

パターン別	【パターンA】 問6 受験したい × 問7 入学したい × 問8 第1希望の学科	【パターンB】 問3 大学進学 × 問6 受験したい × 問7 入学したい × 問8 第1希望の学科	【パターンC】 問3 大学進学 × 問4 興味・関心のある分野 (看護またはリハビリテーション) × 問6 受験したい × 問7 入学したい × 問8 第1希望の学科
看護学科 (入学定員：90人)	240人	164人	131人
リハビリテーション学科 理学療法学専攻 (入学定員：70人)	131人	91人	63人
作業療法学専攻 (入学定員：30人)	48人	30人	19人

問6「仙台青葉学院大学を受験したいか」、問7「仙台青葉学院大学に合格した場合、入学したいか」、問8「仙台青葉学院大学に合格した場合、どの学科に入学したいか」によるクロス集計（表2 パターン A）において「本学を受験したい」、「合格したならば入学したい」と回答した者の内、第1希望を看護学部看護学科とするのが240人、リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻が131人、作業療法学専攻が48人であり、いずれも入学定員を上回る回答数が確認でき、定員充足の見込みがあると判断した。

次に、問3「高校卒業後に希望する進路」、問6「仙台青葉学院大学を受験したいか」、問7「仙台青葉学院大学に合格した場合、入学したいか」、問8「仙台青葉学院大学に合格した場合、どの学科に入学したいか」によるクロス集計（表2 パターン B）において、「大学進学を希望」、「本学を受験したい」、「合格したならば入学したい」と回答した者の内、本学での第1希望を看護学部看護学科とした回答数は164人、リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻は91人、作業療法学専攻は30人であり、いずれも入学定員を充足する回答数が確認でき、定員充足の見込みがあると判断した。

さらに、看護学部看護学科について、問3「高校卒業後に希望する進路」、問4「どのような分野に興味・関心があるのか」、問6「仙台青葉学院大学を受験したいか」、問7「仙台青葉学院大学に合格した場合、入学したいか」、問8「仙台青葉学院大学に合格した場合、どの学科に入学したいか」によるクロス集計（表2 パターン C）を行

い、「大学進学を希望」、「看護に興味」、「本学を受験したい」、「合格したならば入学したい」、「看護学部看護学科が第1希望」とするのが、131人であり、入学定員90人を上回る回答数が確認できた。

リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻についても同様のクロス集計（表2パターンC）を行い、問3「高校卒業後に希望する進路」、問4「どのような分野に興味・関心があるのか」、問6「仙台青葉学院大学を受験したいか」、問7「仙台青葉学院大学に合格した場合、入学したいか」、問8「仙台青葉学院大学に合格した場合、どの学科に入学したいか」のクロス集計において、「大学進学を希望」、「リハビリテーションに興味」、「本学を受験したい」、「合格したならば入学したい」、「リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻が第1希望」とするのが、63人であった。この回答数は入学定員70人を下回るものであるが、以下により、定員充足の見込みがあると判断した。

第一の理由は、今回のアンケート調査は本学の母体となる仙台青葉学院短期大学への入学実績がある、あるいは今後入学が見込まれる高校であり、本学のアドミッション・ポリシーに適合する高校生がいると想定される高校を抽出して実施したものである。高校の事情等で回収率は58.1%であり、回答数の63人以外にも潜在的な希望者がいることが推察されること。

第二の理由は、このクロス集計は問7で本学を第1希望とする回答数を集計しているが、問7で「併願校の結果によっては入学したい」でクロス集計を行うと、入学したいとする者は160人であった。後述する4)競合校の状況にもあるように、競合校3校の平成31年度から令和3年度の入学志願状況を見てみると、全体として入学定員充足率は直近3年間で継続して100%を超えており、また、3年間の平均志願倍率は4.6倍となっていることから、「併願校の結果によっては入学したい」とする層からも一定の入学者数が期待されること。

第三の理由は、このクロス集計は問8でリハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻を第1希望とした者を集計しているが、第1希望を作業療法学専攻、第2希望を理学療法学専攻とする者も加えてクロス集計をすると、入学したいとする者は78人となること。

以上のことから、このクロス集計結果においてもリハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻の定員を充足することができると判断した。

また、リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻についても同様のクロス集計（表2パターンC）を行い、問3「高校卒業後に希望する進路」、問4「どのような分野に興味・関心があるのか」、問6「仙台青葉学院大学を受験したいか」、問7「仙台青葉学院大学に合格した場合、入学したいか」、問8「仙台青葉学院大学に合格した場合、どの学科に入学したいか」のクロス集計において、「大学進学を

希望]、「リハビリテーションに興味」、「本学を受験したい」、「合格したならば入学したい」、「リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻が第1希望」とするのが、19人であった。この回答数は入学定員30人を下回るものであるが、以下により、定員充足の見込みがあると判断した。

第一の理由は、今回のアンケート調査は本学の母体となる仙台青葉学院短期大学への入学実績がある、あるいは今後入学が見込まれる高校であり、本学のアドミッション・ポリシーに適合する高校生がいると想定される高校を抽出して実施したものである。高校の事情等で回収率は58.1%であり、回答数の19人以外にも潜在的な希望者がいることが期待されること。

第二の理由は、このクロス集計は問7で本学を第1希望とする回答数を集計しているが、問7で「併願校の結果の結果によっては入学したい」でクロス集計を行うと、入学したいとする者は41人であった。後述する4)競合校の状況にもあるように、3年間の平均志願倍率は約2.6倍となっており、作業療法士を目指し私立大学に進学する層は相応に存在するものと考ええる。特に今回実施したアンケート調査結果中、検討する併願校として最も多かった東北福祉大学の3年間の平均志願倍率は約5倍となっており、「併願校の結果によっては入学したい」とする層からも一定の入学者数が期待されること。

第三の理由は、このクロス集計は問8でリハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻を第1希望とした者を集計しているが、第1希望を理学療法学専攻、第2希望を作業療法学専攻とする者も加えてクロス集計を行うと、入学したいとする者は61人となること。

以上のことから、このクロス集計結果においても作業療法学専攻の定員を充足することができると判断した。

③総括

アンケート調査結果の単純集計、クロス集計の分析より、看護学部看護学科、リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻、作業療法学専攻のすべてにおいて定員を充足することができると判断した。

2) 新設学部等の分野の動向

「私立大学・短期大学等入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団)によると平成29年度から令和4年度にかけて私立大学の保健系志願者数は179,961人から184,961人と5,000人(2.8%)増加している。その内、看護学部は48,762人から51,399人と2,637人(5.4%)の増加、リハビリテーション学部は3,812人から6,811人と2,999人(78.7%)の増加となっている。志願倍率も看護学部は6倍前後、リハビリテーション学部は4倍前後と高値で推移している。

私立大学全体として当該期間に志願者数が3,882,572人から3,822,509人と60,063人

(1.5%) 減少している中で看護学部、リハビリテーション学部ともに志願者数を増やしていることから、これらの分野を志望する高校生が多く、今後も安定的に学生確保ができるものと判断する。

【資料 8】保健系、看護学部及びリハビリテーション学部の志願動向

3) 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

(1) 18 歳人口の中長期的な動向

リクルート進学総研が調査・公表している「マーケットレポート (2022 年 6 月号)」によると、全国の 18 歳人口は 2021 年の 114.1 万人から 2033 年には 101.4 万人となり、12.7 万人 (11.1%) 減少すると予想されている。東北エリアの 18 歳人口の動向をみると、2021 年の 80,269 人から 2033 年には 63,810 人となり、16,459 人 (20.5%) 減少すると予想されている。本学が所在している宮城県についてみると、2021 年の 20,998 人から 2033 年には 18,148 人となり、2,850 人 (13.6%) 減少すると予想されている。

2021 年の 18 歳人口を 100 とする指数を用いると、2033 年の 18 歳人口は、全国 88.9、東北 79.5 となる。本学が位置する宮城県は 86.4 であり、東北の中では最も高く、全国と同水準に留まる見込みである。

【資料 9】18 歳人口予測

(2) 私立大学の地域別の入学定員充足率

令和 4 (2022) 年度「私立大学・短期大学等入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団) に基づく私立大学の地域別の入学定員充足率【資料 10】を検証する。

過去 6 年間 (平成 29 年度～令和 4 年度) の充足率を見てみると、宮城県を除いた東北に所在する私立大学の充足率は 100% を下回っているが、宮城県は 100% を 6 年連続で上回っている。特に令和 3 年度の充足率は全国でも 100% を下回った中、宮城県は 100% を上回っている。これらのことは、学都と称される仙台に、東北 6 県から多くの若者が学びの場を求めて集っていることによるものと推察される。

【資料 10】私立大学の地域別入学定員充足状況の推移

(3) 宮城県内大学への他県からの流入数

東北 6 県から多くの学生が学都仙台を目指していることは、宮城県内の大学への他県からの流入数から見ても判断できる。令和 3 年度の学校基本調査によれば、宮城県を除く東北 5 県中福島県を除く 4 県 (青森県・秋田県・岩手県・山形県) において、他県大学への進学先の 1 位は宮城県、2 位が東京都となっている。宮城県より南に位置する福島県においても、1 位は東京都であるものの、2 位が宮城県となっている。令和 3 年度

に東北5県から宮城県の大学に進学した総数は3,728人を数える。

【資料11】東北地方（宮城県を除く）の他県大学への進学者数

本学の入学対象者が宮城県のみならず東北6県からの幅広い出身者となり得ることは、本学の母体となる仙台青葉学院短期大学 看護学科及びリハビリテーション学科の過去5年間（平成30年度から令和4年度）の入学者の出身高校所在地データ【資料12】からも判断できる。仙台青葉学院短期大学入学者の出身高校所在地の過去5年間の平均は、看護学科が宮城県72.8%、その他東北5県が25.2%を占めている。リハビリテーション学科は、宮城県が53.3%、その他東北5県が45.3%を占めており、宮城県に限らず東北全体から入学ニーズがあることを示している。

**【資料12】仙台青葉学院短期大学 看護学科・リハビリテーション学科 出身高校所在地
県別入学者数及び割合**

4) 競合校の状況

(1) 看護学部看護学科

上述の通り宮城県に限らず東北各県から本学への安定した入学ニーズが見込まれることから、宮城県及び隣接する東北各県に位置する私立大学5校を競合校とする。

競合校5校の平成31年度から令和3年度の入学志願状況を見てみると、全体として入学定員充足率は直近3年間で継続して100%を超えており、また、3年間の平均志願倍率が4.04倍であることから、看護師を目指し私立大学に進学する層が数多くいることと判断する。

【資料13】競合校の入学志願状況（看護学部）

(2) リハビリテーション学部リハビリテーション学科

前掲の【資料12】において示した通り、宮城県に限らず東北各県から本学への安定した入学ニーズが見込まれることから、宮城県及び隣接する東北各県に位置する私立大学3校を競合校とする。

理学療法士について競合校3校の平成31年度から令和3年度の入学志願状況を見てみると、全体として入学定員充足率は直近3年間で継続して100%を超えており、また、3年間の平均志願倍率が4.64倍となっていることから、理学療法士を目指し私立大学に進学したいと考える層が数多くいることと判断する。

作業療法士については競合校の全体として入学定員充足率は直近3年間、100%を下回っているが、志願倍率は3年間の平均が2.61倍となっており、作業療法士を目指し私立大学に進学する層は相応に存在するものとする。特に今回実施したアンケート調査

結果より、検討する併願校として最も多かった東北福祉大学の作業療法学専攻の3年間の志願倍率は3.98～5.43倍で推移しており、本学を設置することにより、大学で作業療法士を目指したいという層のニーズを満たすことができるものとする。

【資料14】競合校の入学志願状況（リハビリテーション学部）

5) 既設学科等の学生確保の状況

既設校である仙台青葉学院短期大学の平成30年度から令和4年度までの大学全体の入学定員充足率の平均は0.96倍となっており、概ね安定した学生確保の状況であるとする。

【資料15】仙台青葉学院短期大学 過去5年間の入学志願状況

しかし、基本計画書（別記様式第2号（その1の1））の「既設大学等の状況」の欄に記載した定員超過率において、仙台青葉学院短期大学の観光ビジネス学科及び現代英語学科が0.7倍未満となっている。

観光ビジネス学科及び現代英語学科の定員未充足の原因としては、近年の新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化に伴い、国際的な活動が制限されていること、観光業の需要が一時的に減少していることが起因すると考えられる。特に、観光ビジネス学科は観光や経営を学ぶ学科であり、学生の就職先であるJAL、JTB等の旅行・観光業やブライダル業の新卒採用が、軒並み中止・縮小したことが少なからず影響した。現代英語学科も国際的な活動制限の中、在学中の海外留学・研修等の見通しが立たなかったことから、志願者数の減少に繋がったものと推察される。令和3年度の「私立大学・短期大学等入学志願動向」に公表されているように、短期大学の人文系学科の志願倍率は近年2倍超であったのに対し、令和3年度は1.54倍と全国的に低迷した。しかしながら、令和4年に入り、流動的ではあるものの世界で規制緩和が行われつつあり、JALやJTBといった企業では、旅行・観光業の回復を見越した採用活動も3年ぶりに実施することになった。また、令和5年度以降、在学中の海外留学・研修も再開できる見込みである。本学としては、変化する社会情勢を把握しながら、最新の情報を得た上で高校生に向けて広報活動を行い、定員充足を目指す。

なお、観光ビジネス学科と現代英語学科において、現在の社会情勢や定員の充足状況を鑑み、定員の見直しを行う。令和5年度より、観光ビジネス学科の入学定員を80人から50人、現代英語学科の入学定員を40人から35人に変更し、適正な定員管理を行う。

ウィズコロナの社会・経済情勢や定員の見直しにより、短期大学の学生確保を安定的に行うことができるものとする。なぜならば、東北地方は全国的に見て所得水準が低いことから、短期高等教育機関へのニーズは底堅いものと思われ、そのことは仙台青葉学院短期大学を含めた宮城県内の短期大学の入学者数の推移から推察できるからである。仙台青

葉学院短期大学は学科増設や既存学科の募集強化等により入学者数が増加しているが、他短期大学も入学生数を増加しており、宮城県全体における短期大学入学者数は、平成24年度の534人から令和3年度には1,244人となり、2.3倍となった。

【資料16】宮城県内短期大学及び仙台青葉学院短期大学入学者数の推移

(平成24年度～令和3年度)

また、「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」(リクルート進学総研 マーケットリポート 2022年5月号)においても、宮城県は86.9%と高い地元残留率を示している。仙台青葉学院短期大学は、全国屈指の学科数及び学生数を有する短期大学として、多くの若者たちの修学の場として、宮城県並びに東北地方で活躍する人材の育成に邁進したい。

5. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

令和4年6～7月に東北6県等の高校2年生を対象に実施したアンケート【資料7】では、大学・学部・学科名称、養成人材像、キャンパスの位置、学生納付金、競合校と考えられる同分野の大学・学部・学科等の名称を示している。

今後計画する本学看護学部及びリハビリテーション学部の学生確保に向けた具体的な取組について記す。

取組み内容は既設校である仙台青葉学院短期大学で実施している活動を踏まえたものであるが、計画を遂行するにあたっては、認可前と認可後で告知できる内容を正確に峻別することに留意する。

ア 高校訪問

東北6県の高校約370校を中心に、法人本部企画部広報センター職員にて、認可前は令和5年4月中旬から6月中旬、認可後は速やかに訪問する計画である。認可前は、「認可申請中」である旨を示したうえで、大学設置を告知するリーフレットやオープンキャンパスの案内を持参する。認可後はカリキュラム等の具体的な教育内容や入試内容に関わる案内を持参する。

イ ガイダンス参加

東北6県を中心に開催される会場ガイダンス及び高校内ガイダンスに参加し、直接高校生や保護者に大学の概要及び看護師、保健師、理学療法士、作業療法士に対する職業理解を深める説明を行う。あわせてオープンキャンパスへの参加を促進する。

会場ガイダンス、高校内ガイダンス合わせて 350 回、相談者数 900 人を目標に取り組む。

ウ メディアを利用した周知

本学のホームページ、大手の進学情報誌及び進学サイトを中心としたメディアを活用し、広く周知を図る。また、アクセス解析を適時実施し、タイムリーな情報提供を行う。大学の概要に加え、オープンキャンパスの日程等も告知し、参加を促進する。

本学のホームページのアクセス数は 200,000 件を目標に取り組む。また、これらのメディアを通じた資料請求数の目標を 7,000 件とする。

エ オープンキャンパス

オープンキャンパスは令和 5 年 5 月から 10 月までの期間で計 5 回実施する計画である。例年、仙台青葉学院短期大学の志願者に占めるオープンキャンパス参加者の割合は高く、令和 4 年度の志願者については、大学全体では 63.7%となっており、本学においてもオープンキャンパスの動員が学生確保において最も重要であると考えられる。上述の東北 6 県の高校訪問、各種ガイダンス参加、進学情報誌・進学サイト等の媒体への掲載、本学ホームページの情報更新等の活動を計画通り実施し、数多くのオープンキャンパス参加者を確保できるように努める

参加者数は、看護学部、リハビリテーション学部ともに 300 人を目標に取り組む。

オ 高校教員向け説明会

高校進路担当者に対して、認可後に説明会を実施する。入試要項及びカリキュラム等の具体的な教育内容を中心に説明する。入試に関する質問が多いことが予想されるため、質疑応答の時間を十分に確保する。

前述の通り、基本計画書（別記様式第 2 号（その 1 の 1））の「既設大学等の状況」の欄に記載した定員超過率が 0.7 倍未満となっている仙台青葉学院短期大学の観光ビジネス学科及び現代英語学科について、従来取り組んでいた学生募集活動に加え、JAL や JTB といった企業が旅行・観光業の回復を見越し採用活動を 3 年ぶりに実施することになったことや、令和 5 年度以降、在学中の海外留学・研修が再開できる見込みであること等の最新の情報を高校生に向けて強く PR し、定員充足を目指す。

また、観光ビジネス学科と現代英語学科において、現在の社会情勢や定員の充足状況を鑑み、定員の見直しを行う。令和 5 年度より、観光ビジネス学科の入学定員を 80 人から 50 人、現代英語学科の入学定員を 40 人から 35 人に変更し、適正な定員管理を実施する。

これらの取組みにより、仙台青葉学院大学及び既設の仙台青葉学院短期大学の定員充足を

達成することを見込む。

II. 人材需要の動向等社会の要請

1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

1) 仙台青葉学院大学の建学の精神及び教育研究上の目的

仙台青葉学院大学の建学の精神は、「豊かな人間性を育てる教養教育」「良好な人間関係を築く対人教育」「地域社会に貢献し得る実学教育」とする。

また、教育研究上の目的を「学校教育法及び建学の精神に基づき、豊かな人間性を備え、深い専門性と実践力を身につけ、地域社会に貢献する人材を育成する」とする。

2) 養成人材像

(1) 看護学部

人間愛を根底とする豊かな人間性と生命の尊厳に基づく高い倫理観を備え、深い専門的な知識、技術、分析力、判断力からなる看護実践能力を身につけ、生涯にわたり学び続けながら地域の保健医療福祉の向上に貢献できる看護職者を養成する。

(2) リハビリテーション学部

人間愛を根底とする豊かな人間性と生命の尊厳に基づく高い倫理観を備え、リハビリテーション専門職としての深い専門的な知識、技術、分析力、判断力からなる実践能力を身につけ、生涯にわたり学び続けながら地域の保健医療福祉の向上に貢献できる理学療法士及び作業療法士を養成する。

2. 上記1. が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

I. 1. ～3. にて、超高齢社会、地域包括ケアシステムの推進、より効率的かつ質の高い医療提供体制の構築等の社会変化に対応できる医療専門職者が求められており、そのためには四年制大学での教育が必要であること、本学が位置する宮城県においては看護師、理学療法士及び作業療法士の人口10万人あたりの就業者数は、目標として掲げている全国平均を下回っており、その達成は厳しい状況となっていること、また、宮城県の県庁所在地である仙台市より、本学設置に対する賛同及び要望をいただいていること等を述べた。これらに鑑み、本学看護学部及びリハビリテーション学部で養成する人材は社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであると考えるが、さらに検証を重ねるため、以下の分析を行う。

1) 仙台青葉学院短期大学の求人・就職状況

仙台青葉学院短期大学の就職希望者一人当たり求人数及び就職率について、平成 29 年度から令和 3 年度までの過去 5 年間の平均を見てみると、看護学科は 32.1 倍・99.8%，リハビリテーション学科理学療法学専攻は 37.1 倍・98.9%，作業療法学専攻 117.5 倍・99.1% となっており、就職希望者を大きく上回る求人数があり、また高い就職率を維持している。本学の母体となる短期大学のこのような実績に鑑み、看護学部及びリハビリテーション学部で養成する看護師、理学療法士、作業療法士に対する人材需要も大きく、また高い就職率も維持できるものとする。

【資料 17】 仙台青葉学院短期大学看護学科・リハビリテーション学科 求人・就職状況
(平成 29 年度～令和 3 年度)

2) アンケート調査

東北 6 県における本学の卒業生に対する需要を検証するためにアンケート調査を実施した。

【資料 18】 「仙台青葉学院大学（仮称）」設置構想についてのアンケート調査
(病院・施設・県庁・市役所対象)

(1) 調査概要

設置を計画している仙台青葉学院大学 看護学部及びリハビリテーション学部について、病院や施設等の人材需要を把握し、適切な計画遂行を図るべく、令和 4 年 7 月～8 月にアンケート調査を実施した。本学の母体となる仙台青葉学院短期大学 看護学科及びリハビリテーション学科の東北 6 県の就職先、実習先や新たに就職先となり得る候補施設を中心に計 424 施設を調査対象とした。調査実施時には、調査票の他、本学のチラシを配布し、大学・学部・学科の名称、設置の理念や養成人材像等を明示した。424 施設中、141 施設から回答があり、回収率は 33%であった。

(2) 結果概要

①集計結果

問 1 「病院・施設の種類」についての主な回答は、「1. 病院」が 72 件と最も多く、次いで「4. 介護老人保健施設」28 件、「6. 訪問看護ステーション」13 件、「2. 診療所・クリニック」12 件であった。

問 2 「医療専門職者（看護師、保健師、理学療法士、作業療法士）の 4 年制の大学教育についての考え」に対する回答は、「1. 必要性を感じる」137 件、「2. 必要性を感じない」4 件であった。

問 3 「本学の卒業生の採用意向」についての回答は、「1. 採用したい」52 件、「2. 採用を検討したい」50 件、「3. どちらとも言えない」33 件であった。

問4「問3で「1. 採用したい」または「2. 採用を検討したい」と選択した場合、本学の卒業生を何人採用したいか」についての回答は、「①看護師」190人、「②保健師」33人、「③理学療法士」101人、「④作業療法士」108人であり、本学の定員を上回る採用意向が確認できた。さらに問3の回答を、「1. 採用したい」のみに絞った場合でも、「①看護師」145人、「②保健師」20人、「③理学療法士」72人、「④作業療法士」77人と、すべての職種において定員以上の結果を得ることができた。

②自由記述

問5にて設置構想中の仙台青葉学院大学について、ご意見・ご要望を自由記述いただいた。以下、抜粋する。

- ・3年制から4年制に変更されることにより、更に質の高い教育を受け、優秀な学生が増えるものと期待しております。引き続きよろしく願いいたします。
- ・作業療法士がもっと世に増え、活躍して欲しいと考えています。当法人の事業の視点での意見です。
- ・青葉学院ならではの特色のある学生育成をしていただけることを期待しています。
- ・現場で確実に戦力となる人材を育てていただきたく思います。
- ・貴学の専門的な教育に、学を深めた学生様が地域医療・福祉にて活躍できる場として、当法人をご検討頂きたいと存じます。仙台青葉学院大学設置構想が早期実現することをご期待申し上げます。
- ・秋田県にはOTの養成校が秋田大学しかありませんので、説明会や情報交換の機会を与えていただければ幸いです。
- ・貴法人の卒業生が現在当院でOTとして活躍しています。今後是非、就職や実習等でやりとりさせて頂ければ幸いに存じます。宮古地区には大学がないことから、岩手県沿岸エリアの高校生の進学先として貴学の開学に期待しております。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。
- ・医療専門職者は今後ますます必要性が高まってくるものと考えられます。すぐれた人材養成のため適切な養成のあり方を追求し、学校運営に務めていただきたい。
- ・これまでも貴校の卒業生は真面目で優秀なナースに育っていました。今後大学に改組なさることで、さらに実践力のある人材育成につながるのではないかと心より期待致します。
- ・地域医療に貢献できる看護師の育成を期待します。
- ・地元出身・あるいは宮城県およびその周辺の医療従事者が少しでも増えるような人材育成をしていただければと思います。

3) 総括

上述の分析結果から、看護学部、リハビリテーション学部のいずれにおいても、卒業

生に対する十分な人材需要を見込むことができると判断した。

自由記述における意見からも、本学の人材養成に対する期待及び協力的なご意見、また、本学の母体となる仙台青葉学院短期大学の卒業生への高い評価などを伺えた。

以上のことから、本学の教育研究上の目的及び人材養成に関する目的は、社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえるものであり、地域社会で活躍し得る医療専門職者を養成すべく、仙台青葉学院大学を設置するものである。